～～第７５６６回～～

浅間山(浜松市)

～Ｈ２６.１２.１４～

朝8：00にＪＲ浜松駅バスターミナル15番ポールに4名が集合した。8：20発奥山半僧坊行のバスに乗込み出発し、尾沢バス停で降車した。準備体操後、広いアスファルトの道を狩宿入口まで歩いて30分、そこから登りの道に入った。山間に点在する民家の合間を縫って車1台が通れる曲がりくねった道を登って行った。遠くに富幕山が望める。このあたりが熊の集落である。途中、細い車道を外れ昔の山道に入るのだが、雑木と背の高い草に覆われ入口が判らない。やっとの思いで見つけ、針葉樹林の中を登って行った。途中、踏み跡は薄くなり、かつての新城へ通じる主要道は荒れ果てていた。やっとの思いで峠に出た。そこは黒松峠と書いたブリキ板の看板があった。尾根つたいにはしっかりとした踏み跡の山道が続いていた。これが愛知県と静岡県の境である。途中、大型機械を使った杉の木の伐採現場に出会った。伐採している現場をみるのは久しぶりである。尾根つたいには新城から上がってくる道がいくつかあった。愛知県側からの登山が多いと思われた。さらにアップダウンを繰り返しながら尾根に沿って行くと、浅間山が林の合間に見えてきた。いったん大きく下がり、登り返すとそこは浅間山山頂である。頂上はあまり広くないが、北側が切り開かれていて、10余りの苔むした石の祠が西に向いて並んで立っていた。富士山を望む覗き筒（直径5cmくらいのビニール管）が取り付けられていたが、覗いても曇っていて富士山は見えない。登山日誌もあり、そこには新城の小学校が昔、毎年登山を行事にしていたことが伺えた。ここで昼食としたが、寒い為30分ほどの休憩後、さらに北に向かって尾根に沿って下って行った。下がり切った所で尾根から外れ、まっすぐ下がると西黒田の集落に通じることを示したブリキの標識板に従って東へ下った。そこは道ではなく、モトクロスが走った跡と思われる荒れた斜面を下って行った。10分ほど下ると苔むしたアスファルトの林道に出た。この林道は今はほとんど使われていないようだ。林道を下って送電線をくぐって行くと、西黒田の集落が見えてきた。急斜面に民家が点在している。ここも民家を繋いだ細い曲がりくねった道路であったが歩き安かった。みかん畑が点在する長閑な集落である。下りきると新東名の高架に沿って東に向かって行き、新東名浜松いなさインターを通り抜け、国道275線にぶつかった。そこから南に少し下ると西黒田入口バス停があった。1時間に1本の少ない本数である。14：42に乗車し一路ＪＲ浜松駅バスターミナルに向かった。

　　　　　　　　　 浜松支部　K．I